

## A. サン＝レオン著『ステノコレグラフィ』におけるグリセの変容

赤塚健太郎（成城大学）akatsuka@seiyo.ac.jp

### 1. 発表の目的

【バレエとすり足】

- ◆ 17 世紀後半から 18 世紀初頭のダンス：バレエの基礎的な技法や用語を確立
  - 特徴：グリセ glissé（足を地面に触れたまま滑らせるすり足）の重視・多用
- ◆ 疑問：バレエにおけるグリセは、どのような過程を経て重要性を失っていったのか？

【A. サン＝レオンの理論書への着目】

- ◆ 理論書『ラ・ステノコレグラフィあるいはダンスの速記術 La Sténochorégraphie, ou Art d'écrire promptement la Danse』（1852 年）（以下、『ステノコレグラフィ』）
  - 著者：アルテュール・サン＝レオン Arthur Saint-Léon（1821-1870）
  - 独自のダンスの記譜法を確立し、バレエの練習課題を豊富に記録
- ◆ 二面性：1700 年代初頭からのグリセを受け継いでいる面と大きく変化している面

【本発表の問題設定】

- ◆ 発表の目的：『ステノコレグラフィ』の検討から、グリセの変容を明らかにすること
- ◆ 対象の限定
  - 関連の深いタン・ド・クーラント tem(p)s de Courante にも着目
  - 付随的に入り込んでくる小さなすり足動作とグリッサード glissade は除外

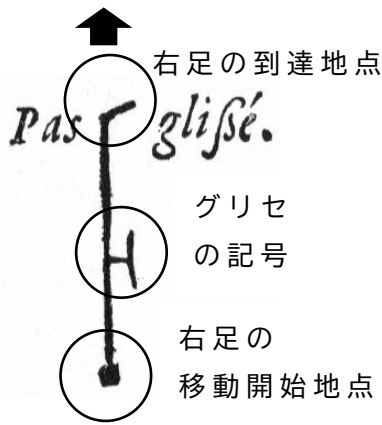
### 2. 19 世紀半ばまでのグリセ

【フィエの『コレグラフィ』のグリセ】

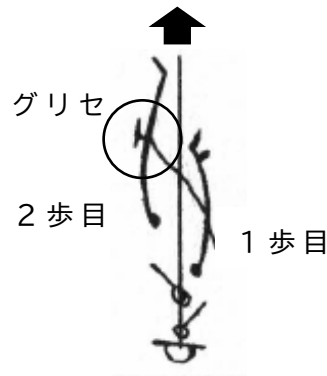
- ◆ 理論書『コレグラフィ』（1700 年）
  - 著者：ラウル＝オジェ・フィエ（1659 から 60-1710）
- ◆ フィエの述べるグリセ
  - 説明：「足が進みながら地面の上を滑るとき」（Feuillet 1700, 2）
  - パ・グリセ：1 歩の移動に T 字状の記号を加える（〔図 1〕）

【使用例 1：クペ】

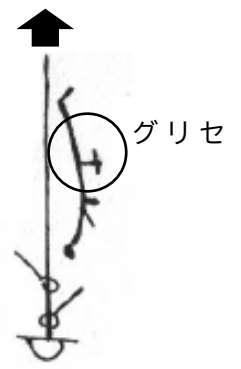
- ◆ フィエの示した「前方へのクペ Coupé en avant」（〔図 2〕）
  - 1 歩目①：膝を曲げ上体を下げるプリエ plié
  - 1 歩目②：膝を伸ばしつま先立ちになるエルヴェ élevé
    - ・ プリエ→エルヴェの伸び上がり：強勢表現（赤塚 2021, 59）
  - 2 歩目：高められた上体がパ・グリセで前へと運ばれる



【図1】パ・グリセの記号  
(Feuillet 1700, 11)



【図2】前方へのクペ  
(Feuillet 1700, 54)



【図3】タン・ド・クーラント  
(Feuillet 1700, 47)

【使用例2：タン・ド・クーラント】

- ◆ フィエの示したタン・ド・クーラント（[図3]）
  - その場でのプリエ→エルヴェに、パ・グリセを続ける
  - 特徴：伸びあがった体勢で行うすり足により、荘重な身体を誇示
- ◆ ピエル・ラモ Pierre Rameau（活動：18世紀前半）の理論書『ダンス教師 Le maître à danser』（1725年、パリ出版）：「パ・グラヴ pas grave」という別名

【18世紀半ば以降の状況】

- ◆ 18世紀半ば以降のグリセ：動作タイミングまで含めた詳細は不明
- ◆ タン・ド・クーラント：バレエの練習課題として長命を保った
  - 例：ミシェル・サン＝レオン Michel Saint-Léon（1777?-1853）の手稿の『ダンス練習帳 Exercices de 1829』（1829）
  - サンドラ＝ノル・ハモンドの先行研究（Hammond 1984; 1992）
    - ・ 伸び上がり動作にすり足を続ける点に概ね変化がなかったことを指摘

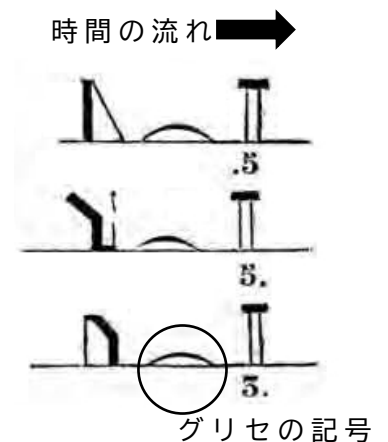
3. 『ステノコレグラフィ』のグリセ

【タン・ド・クーラントの衰退】

- ◆ 19世紀半ば：タン・ド・クーラントの消滅とグリセの変容
- ◆ アルテュール・サン＝レオンの理論書『ステノコレグラフィ』
  - タン・ド・クーラントの不在

【サン＝レオンによるグリセの説明】

- ◆ 記譜法解説におけるグリセの定義：フィエと類似
  - 「脚が、あるポジションから別のポジションへと地面を滑りながら進むこと」（Saint-Léon 1852, 31）
- ◆ 独立したステップとしての扱いの喪失：フィエからの変化
  - グリセの記号：動作間に使用→動作のつなぎへと変貌

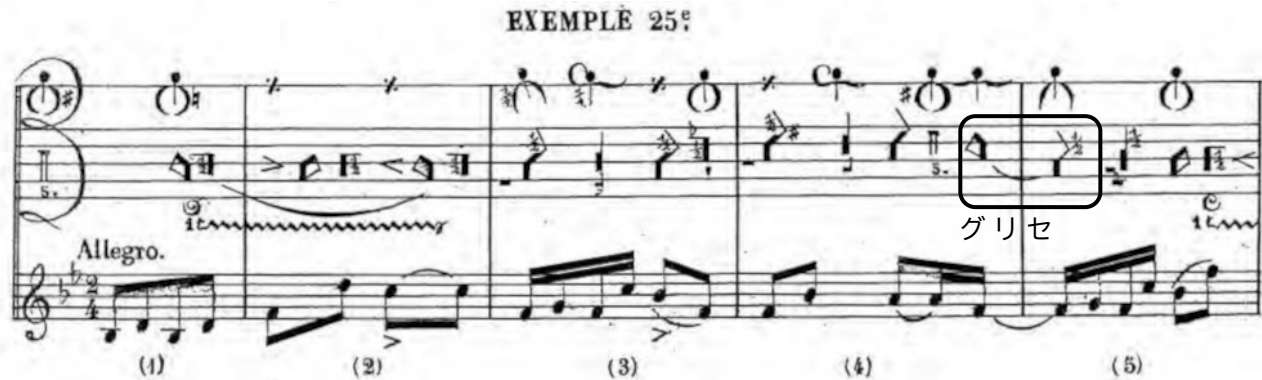


【図4】グリセの記譜例  
(Saint-Léon 1852, 31)

【練習課題 25 の考察】

◆ 練習課題 25 のグリセ

- 小節線を跨ぐ形で、プリエをした状態で前に進む一步にグリセの弧線
- 後続する跳躍に備えるため低めた体勢で実施→別動作の準備に

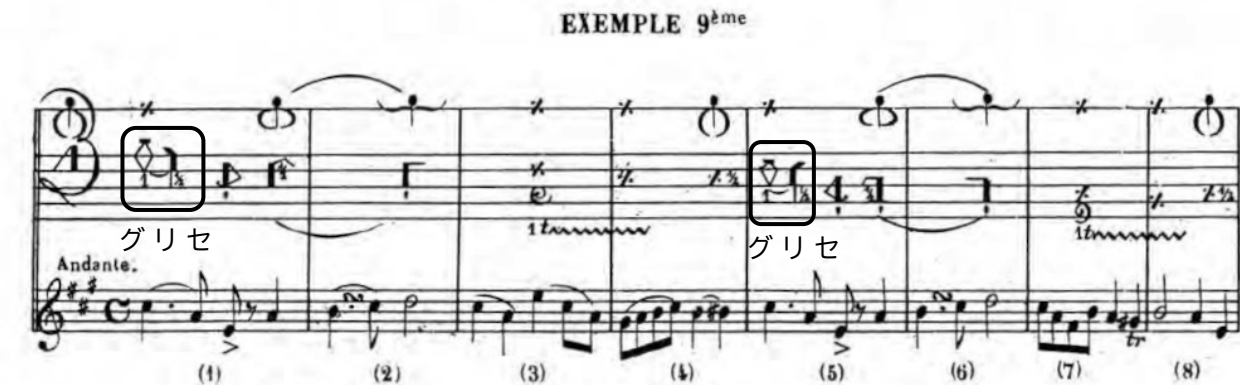


【図 5】『ステノコレグラフィ』の練習課題 25 前半 (Saint-Léon 1852, PLANCHE X)

【練習課題 9 と 10 の考察】

◆ 練習課題 9 と 10 のグリセ

- 両脚プリエから片脚を空中へ伸展するグリセ→地面との接触を放棄
  - ・ 低めた体勢における準備動作としての性格



【図 6】『ステノコレグラフィ』の練習課題 9 前半 (Saint-Léon 1852, PLANCHE II)

※ステップ復元に際し譲原の文献 (2007, 128-129) を参照した

4. まとめと展望

【考察のまとめ】

◆ 本発表の指摘：『ステノコレグラフィ』のグリセの二面性

- ① 継承：フイエ以来のグリセの定義を受け継ぐ
- ② 変容：グリセを独立したステップ単位として扱うことを放棄→他の主たる動作に奉仕する準備や一種の表情付けに
  - ・ 動作のつながりや後続動作の準備に変化
  - ・ 絶えざる地面との接触も不要に
  - ・ プリエで低めた体勢での実施が顕著

### 【背後にあるバレエの変化】

- ◆ 貴族的なダンス文化の衰退
  - フィエの時代：「低いダンス *danse par bas*」 = 接地を絶やさないようなダンスを尊重
- ◆ 19世紀：上方への志向性の高まり
  - 超自然的な題材や表現の流行

### 【フレーズ構成の問題】

- ◆ フィエの時代のグリセ：しばしばフレーズを閉じる機能
  - 〈アシルのブレ〉冒頭頁 (Pécour 1700, 1)：4小節の旋律フレーズの最後にグリセ・すり足の摩擦で勢いを減殺し、一連の動きにブレーキ
- ◆ 『ステノコレグラフィ』のグリセ
  - 低い体勢で行われ続く動作を導くため、フレーズを閉じない

### 【課題】

- ◆ 本発表の考察：100年以上を隔てた2つの時代の比較に終始
- ◆ 今後の検討課題
  - グリセの変化が生じ、拡大した過程の詳細
  - 練習課題とサン＝レオンが記譜した実際の振付におけるグリセの違い
  - フィエの時代のグリセ：フレーズを閉じる機能が、どの程度の範囲で見られるか

### 参考文献リスト（直接に引用・参照したもののみ掲載）

#### 【一次文献・資料】

- ◆ Raoul-Auger Feuillet. 1700. *Choregraphie ou L'art de decrire la dance.*
- ◆ Guillaume Louis Pécour. 1700. *Recueil de dances composées par M. Pecour.*
- ◆ Pierre Rameau. 1725. *Le maître à danser.*
- ◆ Michel Saint-Léon. 1829. *Exercices de 1829.* Paris, Bibliotheque de l'Opera, Res. 1137.
- ◆ Arthur Saint-Léon. 1852. *La Sténochorégraphie, ou Art d'écrire promptement la Danse.*

#### 【二次文献】

- ◆ 赤塚健太郎 2021 『踊るバロック 舞曲の様式と演奏をめぐる』アルテスパブリッシング
- ◆ 譲原晶子 2007 『踊る身体のディスクール』春秋社
- ◆ Sandra Noll Hammond. 1984. "Clues to ballet's technical history from the early nineteenth-century ballet lesson." *Dance Research* Vol. 3, No. 1: 53-66.
- ◆ Sandra Noll Hammond. 1992. "Steps through Time: Selected Dance Vocabulary of the Eighteenth and Nineteenth Centuries." *Dance Research* Vol. 10, No. 2: 93-108.

#### ※使用動画

ステップ実践を成城大学大学院の吉田久瑠実さんをお願いし、ヴァイオリン伴奏は発表者が行った。